



はじめての地デジ・ データ放送

濱田 淳

第4回 画面自作その1…ページ全体の構成&レイアウトの検討

CQ出版社

コンテンツメニュー

トランススタ技術

Interface



CQ出版社のテレビチャンネルへようこそ。データ放送としてテレビ用に制作しました。
ここに文字を表示できます。<Hello! World>

写真1 今回からは実際のデータ放送画面の制作に挑戦する
本連載で制作するCQ出版社の雑誌紹介画面

今回からは、今まで解説してきたBML記述などの内容をもとに、実際に写真1のようなデータ放送の画面を制作します。(編集部)

データ放送画面を作るには

●各放送局の管理下で制作している

データ放送で表示されるデータ放送画面は、各放送局の管理下で制作されています。表示内容の検討からデザイン設計、制作、検証などを各放送局で行います。データ放送は、極めて高い公共性を持つ「放送」の一部であるため、すべての視聴者が正常に視聴できるような放送品質を保つ必要があります。そのため、それぞれの工程には時間がかかり、その費用も安くはありません。

この考え方は基本的にWebページでも同じです。

特に、多くの利用者に関覧されるような大企業のWebページの制作や運用には、かなりの費用と時間がかかっています。

●その気になれば自分専用データ放送も作れる

ではデータ放送画面を個人で制作することはできないのかと言うと、そうではありません。最小限の基本的な技術をおさえることで、比較的簡単な画面であれば、個人で制作することもできます。

そこで本連載では、必要最小限のテクニックで制作できる、データ放送画面の制作に挑戦します。制作するデータ放送画面は、本誌2013年11月号～2014年6月号の「実験研究 自分だけのミニマム・テレビ局」で作ったミニマム・テレビ局の一つのチャンネルとして視聴することを目指します。